

三井金属鉱業株式会社(5706)

2016年3月期 第2四半期

決算説明会

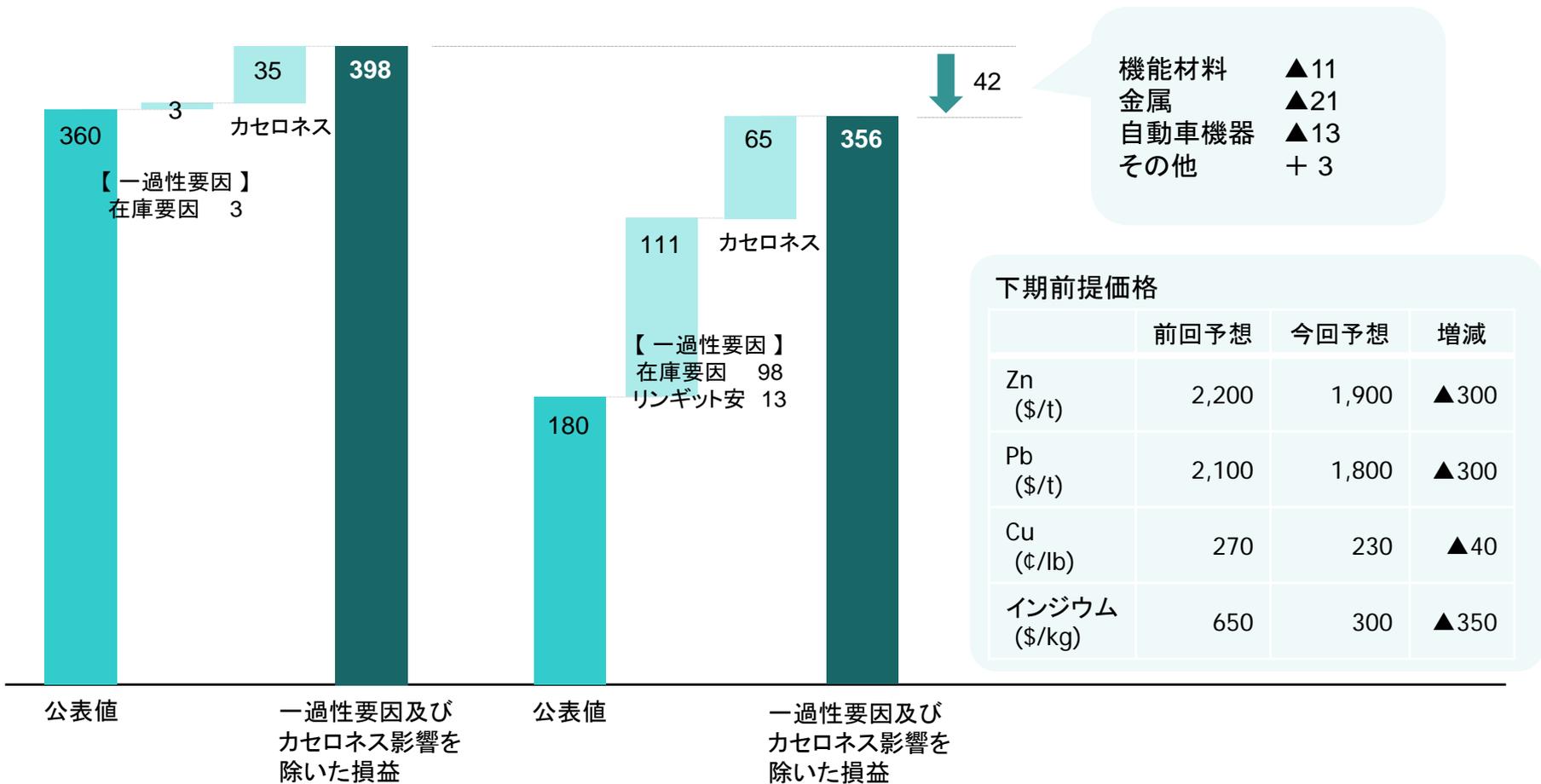
2015年11月11日

通期予想

一過性要因とカセロネスの影響を除いた修正額は
▲42億円。金属価格下落や電池材料事業減速が影響

前回予想

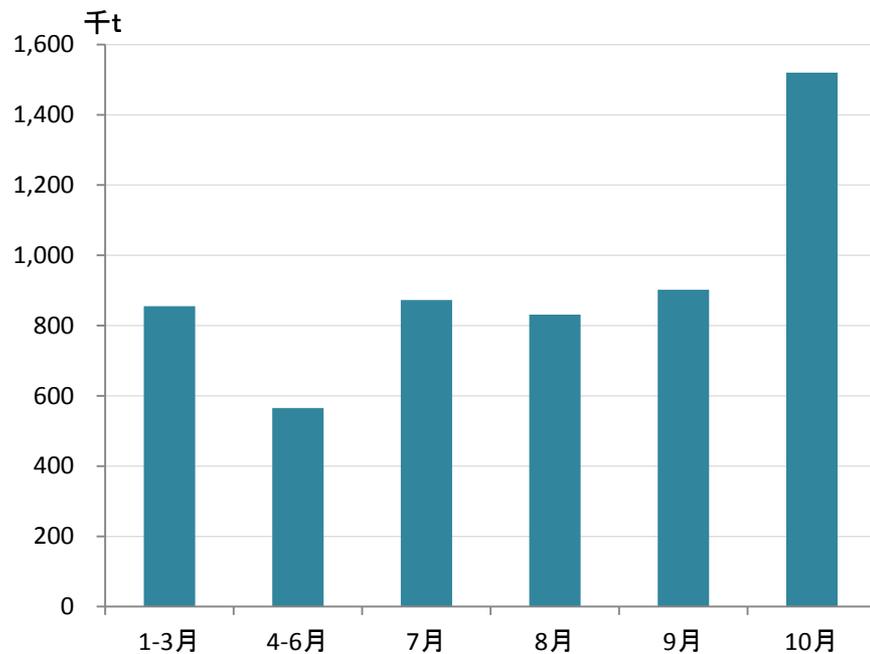
今回予想



【カセロネス】

- ・ カセロネスは、9月にフル稼働が可能な体制を構築
- ・ 現状は、フル稼働レベルでの操業において生じた不具合の調整を実施中

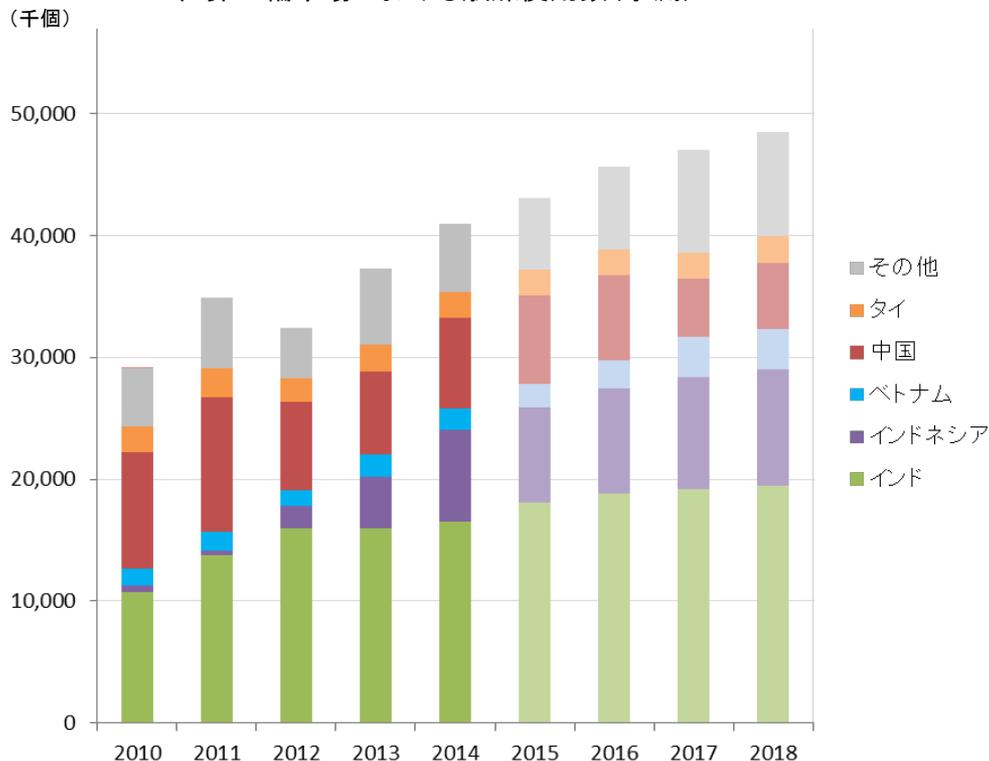
月あたり粗鉱処理量(銅精鉱生産工程)



【 触媒 】

- ・ インドネシアの減速をベトナムがカバーし、今年度の販売数量はほぼ前年度並みを見込む
- ・ 中長期的に見れば、アジアを中心に2輪向け触媒の数量が安定して伸びていくシナリオに変化はない
- ・ 当社初の4輪車用排ガス浄化触媒製造販売子会社であるMKCA※が、計画通り7月に量産開始
来年度は現行の2.5倍のキャパに引き上げる（60 → 150万個/年）

世界二輪市場における触媒使用数(予測)



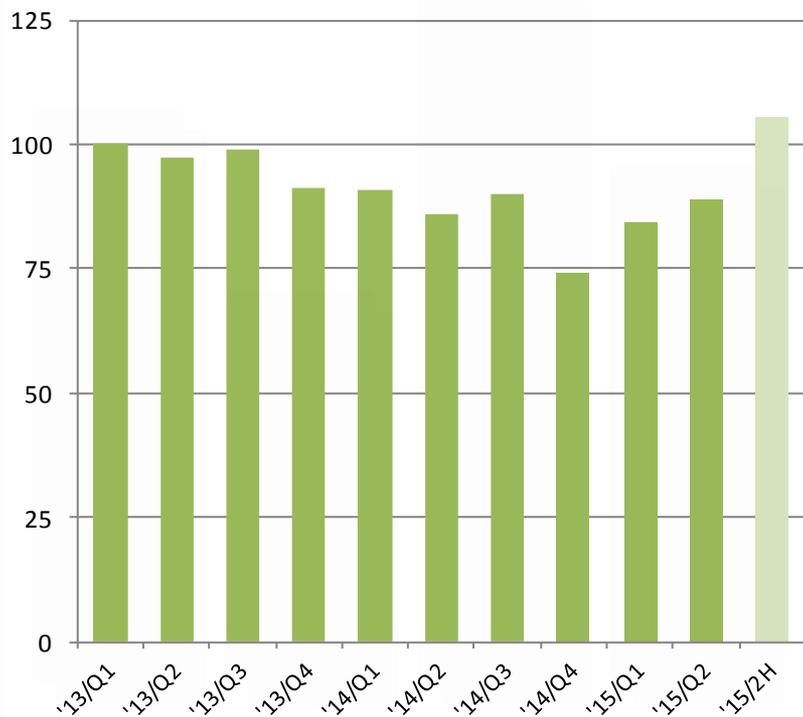
※ Mitsui Kinzoku Catalyst America



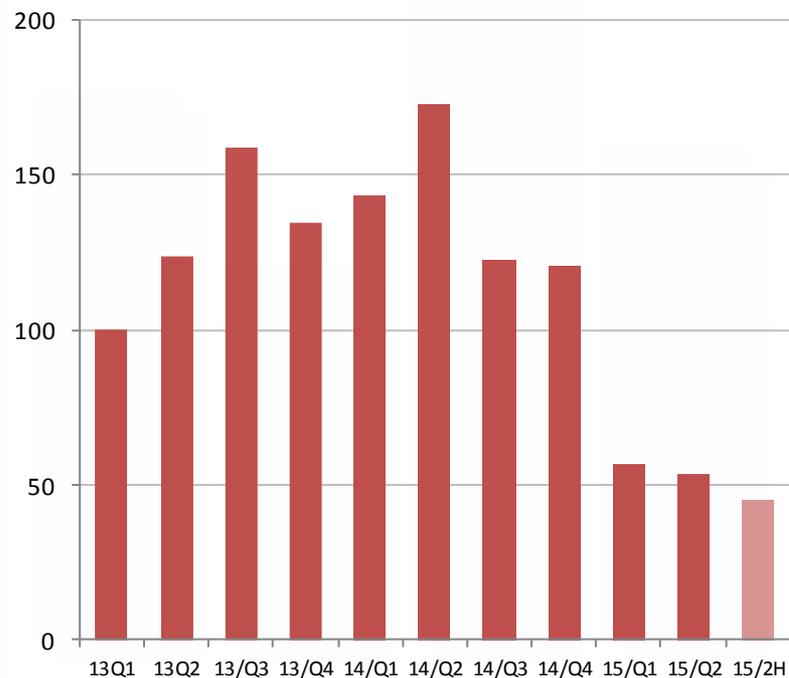
【電池材料】

- ・ MH合金はハイブリッド車モデルチェンジ効果で下期数量を伸ばす見込み
- ・ LMOは低い稼働率が続くが、コストダウンを進めるとともに、新規顧客開拓を目指す

MH合金販売数量（'13/Q1を100としたときの指数）



LMO販売数量（'13/Q1を100としたときの指数）



【 自動車機器 】

- ・ メキシコにおける設備立ち上げトラブル等により、期初予想を下方修正
- ・ 数量的には、メキシコ・中国において計画を下回るものの、好調な北米およびタイがカバー

新工場操業開始

	2013年	2014年	2015年
メキシコ Mitsui Kinzoku ACT Mexicana	第1期 7月 操業開始	第2期	操業開始
インドネシア Mitsui Kinzoku ACT Indonesia	第1期 12月 操業開始	第2期	操業開始



Mitsui Kinzoku ACT Mexicana

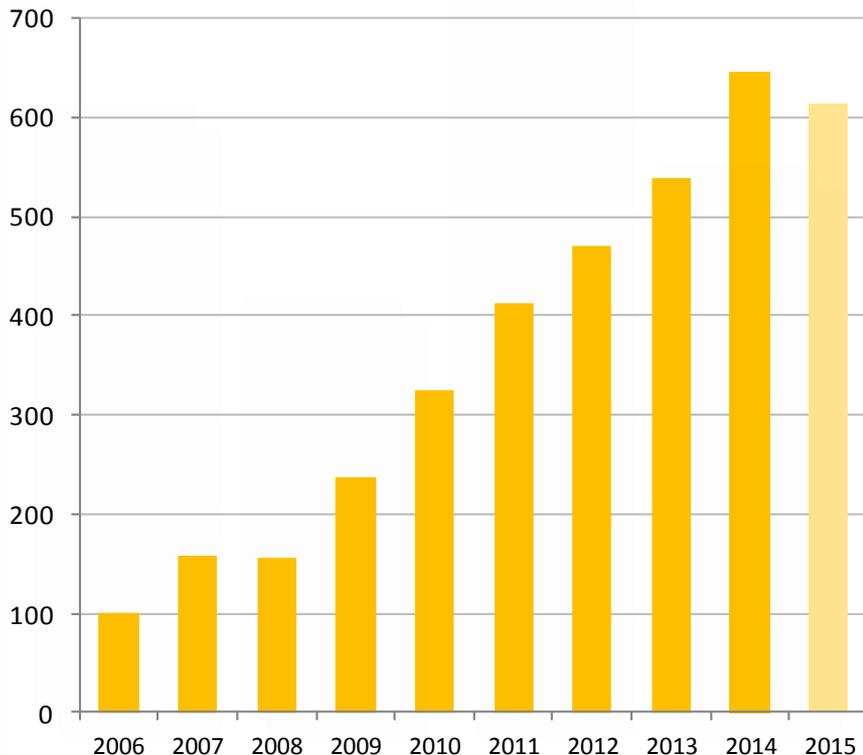


Mitsui Kinzoku ACT Indonesia

【銅箔】

- ・ マイクロシンは在庫調整の影響もあり、今年度は伸びないが、来年度以降
ファイン回路の追求だけでなく、顧客の使い勝手も追求した商品開発を継続し、
拡販を目指す
- ・ アジア拠点はプロダクトミックス改善とリングット安によるマージンupで実力は大幅に好転

Micro Thin™ 販売量 (2006年を100とした指数)



アジア拠点収益推移

2012年度 約▲10億円/年



高機能銅箔アジアシフト

2013年度 約▲5億円/年



2014年度 約▲1億円/年



・リングット安によるマージンup
・ファラドフレックス貢献

2015年度 約+20億円/年

(いずれもリングット安による一過性の損失を除く)

将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与える潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご注意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。